

会社体験記

“働くことで学ぶ”
学院生のリアルをお届けします

“現場でやったあれはこういうことだったのか”経験と知識が
ひもづく学び

今日、話を伺うのは株式会社かみえちご測地でOJT(On the Job Training)有償インターンを行う高校2年生の坂西さん。職場の先輩である池森さんと一緒に、「学びながら働く」感想や思いなどをインタビューしました。

現在、どんなお仕事をしていますか？

坂西「測量士の見習いとして、外業・内業を半々ぐらい行っています。外業というのが、計測機器をもって現地で測量する仕事で、内業は事務所で図面や報告書を作る仕事です。」

なぜこの会社でOJTをしよう？

坂西「2つくらいあって。まずは、機械が好きなので、機械に触れる仕事であるということです。もう1つが、屋内の仕事と屋外での仕事が半々ぐらいだと企業見学の時に説明があったことです。」

実際にやってみて、どうでしたか？
思っていたのと違うところ、とか。

坂西「不安に思っていることは特にな



株式会社かみえちご測地

上越地域を中心に、測量を通じて地域社会を支える技術者たち

1991年の設立以来、道路、河川、砂防、橋梁、森林などさまざまな仕事に携わっている会社。

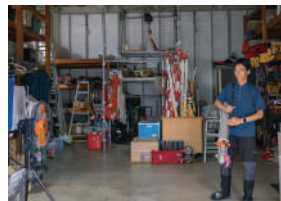
長年の経験に裏付けされた測量技術を基に、ドローンやLiDAR等の最新技術を用いた陸・空・海あらゆるフィールドでの安全で精度の高い測量に取り組んでいる。

く、むしろ楽しいのですが、意外だったこととして、結構急斜面などところでの測量があつて。あとは長距離というか、すごい勾配がきついたりところを順番に測量して行ったり」

池森「最近行ったところでいうと、妙高のほうの、8号線の橋の下あたりのことかなと思います。ある程度までは車でいきますが、そこから先は、山の擁壁(コンクリートの土留め)やブロックを降りていくようなこともあります」

坂西「その時が、会社入って今までで一番きつかったです。」

池森「坂西さんは本



あ、これ一番きついなと思ったことも、でも、あの時よりはマシだな」のように、だんだん積み重ねていってけると思っています。」

—そういうことが、生きた経験ですよね
池森「測量の仕事は、同じ現場で決まった作業を繰り返して…ということがなく、常に新しい現場にいて、その場

所に合わせた作業をすることが求められる特徴があります。道路にしろ、建物にしろ、何かができる前の現場に入っていくことが多い。」

坂西「結構ジャングルのようになっていて、ところに入っていくたりすることもありました。道路の整備されていない場所とか。そういった場所は、自分たちで草などを刈って入っていきます。」

池森「そういう意味でも、移動距離の長い、遠方の仕事ではありますので、事前に保護者のサインをいただくようにしています。」

—実際の仕事をやってみて、学校の勉強と違うなと感じたところは？

坂西「学校の、ただ机の上に向かうだけより、体を動かして学ぶので、専門的なことが結構すんなり入ってくるなと思っています。例えば資格(測量士補)の勉強をしても、ただ机に向かっているより、「現場でやったあれはこういうことだったのか」みたいな感じで分かることが多いです。現場で先に行ったことが、勉強していると思えてくることの方が多く思っています。」

—OJTを通して、できるようになったと思うことを教えてください

坂西「測量の基礎になるトータルステーションの使い方をかなり覚えられたかなと思います。あとは、最近、杭を打つ時に十分な深さに入るようになったことです。ハンマーを使うのですが、重くて、ただ打っているだけだと中々入らずにすぐ疲れてしまつて。そこで池森さんの打ち方を真似してみたら、ある程度まっすぐ入るようになって。」



池森「坂西さんは、同時期に入ってきた新卒や中途と比べてもすごく習得が早く、頑張っていると思います。そういう意味で、社内にもいい刺激になっているのかなと。測量には色々な道具や技術がある中でも、トータルステーションを使ったものが基本・基礎になっていきますので、いい意味で競い合って、それぞれ伸びていくくれたらと思いますね。」

仕事の内容

測量士の見習い

として、現地に赴き様々なデータを収集する

「外業」と、外業で集めたデータを地図や報告書に

まとめていく「内業」が主な業務。外業では、これから建物が建つところなど、まだ十分に人の手が入っていない現場へ最初に入っていくことも。ドローンなどの最新技術の活用や、これからのような建物が出来上がっていくのかを想像しながら測量を進めていくことなどが魅力。



とある一週間

日	土	金	木	水	火	月
休み	休み	通信制の勉強	登校日	OJT	OJT	OJT



地域おこしPBLで地域へ！ 越佐まぐろ祭に出店しました

6月21日(日)、直江津屋台会館で実施された「第1回越佐まぐろ祭」に、上越校PBLのカフェチーム6名が参加しました。当日は、新商品であるキューバサンドの初お披露目でしたが、用意した70食分は昼過ぎには完売。他の商品も祭り全体の予定より1時間早く売り切ってしまう大盛況でした。



今回出店したフードメニューは「キューバサンド」と「小判焼き」の2つ。キューバサンドは、アメリカのフロリダ州が発祥だと言われる、プレスしながら焼いたカリカリの触感が特徴的なホットサンドです。小判焼きは、直江津町の和菓子屋で提供されてきた伝統あるイベントグルメの1つで、ポッポ焼きに似た焼き菓子としてライトシップでの復刻を目指しているものです。

越佐まぐろ祭では、佐渡を拠点に世界的な活躍をする太鼓芸能集団「鼓童」や佐渡の鬼太鼓を始めとしたパフォーマンスが続ぎ、多くの人でこった返すなか、学院生が協力・連携しながら一生懸命飲食店ブースとしてのサービス提供に励んでいました。

また、小判焼きを作っていく中でのちょっとしたミスから、新商品のアイデアが生まれることも。新商品は7月19日(日)に出店する協力企業Bijunkaさま主催のイベント「みんなのSummer Marche」にてテスト出品予定です。



片付けも終わったころ、PBLとして当日の振り返りも実施。とても人が多く、緊張した「お客様に出すというものを作ったことがなかったので、下手だったかもしれないが、精いっぱいできたと思う」等、感想を述べあいました。

最後には松本学院長から「特に1年生は、初めてのイベント出店でもあった中で、一生懸命やっていたと思います。2年生は、そんな1年生の様子を見ながら気配りや声掛けなどのサポートをしてくれていたことが素晴らしいです。こういった経験を積みながら、今後は1Fカフェの開店に向けてオペレーションなどの技術を身に付けていってください」と、労いと今後への励ましがありません。

LWS「自分も相手も大切にする」を実施しました

当学院のスタッフ、ウェルビーイングプランナーの霜鳥さんを講師として、性教育をテーマにしたLWS (Lightship Workshop)を実施しました。

冒頭、霜鳥さんは悩みには大きく3種類があると説明。①お金の悩み ②健康の悩み ③人間関係の悩みと3種類ある悩みのうち、今回は主に②健康の悩みと③人間関係の悩みとの向き合い方について、学院生と語り合いました。

霜鳥さんは、上越市を中心に10代のこころや健康、性の悩みを相談できる「ユースクリニック」での経験を交えながら10代ならではの悩み事が決して自分だけの問題ではないことや「性」のイメージは人それぞれでまったく異なることについて話しました。

結びでは、悩みを持つことそのものを決して自分で否定しないこと、SNSやネット上だけではなく、身近な実際に顔の見える相談相手を持つことの重要性を伝えました。



8/9(日) managara HighSchool スクーリング

8/12(水)~14(金) 休校日

上越校を施設する期間です。自主学習等で使用できません。

8/27(木) 夏季休校後の最初の登校日

8/1(土)~20(木) 夏季休業

登校日がない期間であり、OJTは各企業での勤務計画の通りに進みます。長期休暇を必要とする場合は事前に企業担当者と相談してください。平日は普段通り自主学習等に上越校・サテライト共に活用できます。

お知らせ

Information